

トヨタ純正

プロテクションフィルム（ドアハンドル）

取付要領書

このたびはトヨタ純正プロテクションフィルム（ドアハンドル）をお買い上げいただき、ありがとうございます。
本書はプロテクションフィルム（ドアハンドル）の取り付け要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読みいただき、正しい取り付けを行ってください。

品 番

08174-42040

構成部品

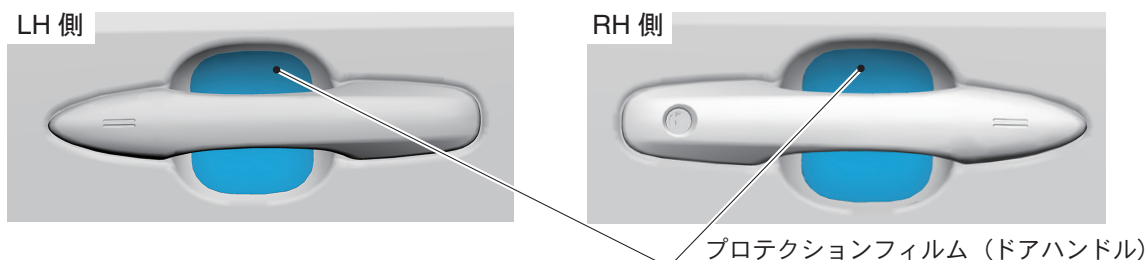
※イラスト内の○は識別位置、[]は識別形状を示しています。

1	No.	品 名	個数
2	1	プロテクションフィルム（ドアハンドル） Fr	2
3	2	プロテクションフィルム（ドアハンドル） Rr	2
4	3	型紙 Fr, RH	1
5	4	型紙 Fr, LH	1
6	5	型紙 Rr, RH	1
7	6	型紙 Rr, LH	1

補給品番

品 名	品 番	構成部品（各1個）
プロテクションフィルム（ドアハンドル） Fr, RH	08174-42041	1 3
プロテクションフィルム（ドアハンドル） Fr, LH	08174-42042	1 4
プロテクションフィルム（ドアハンドル） Rr, RH	08174-42043	2 5
プロテクションフィルム（ドアハンドル） Rr, LH	08174-42044	2 6

取付概要



取り付け上の注意事項

この取付要領書では安全な作業をしていただく為、特にお守りいただきたいことを次のマークで表示しています

- △注意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を破損する等の恐れがあることを記載しています
- 👉アドバイス・・・スピーディーに作業していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています

取り付ける前に

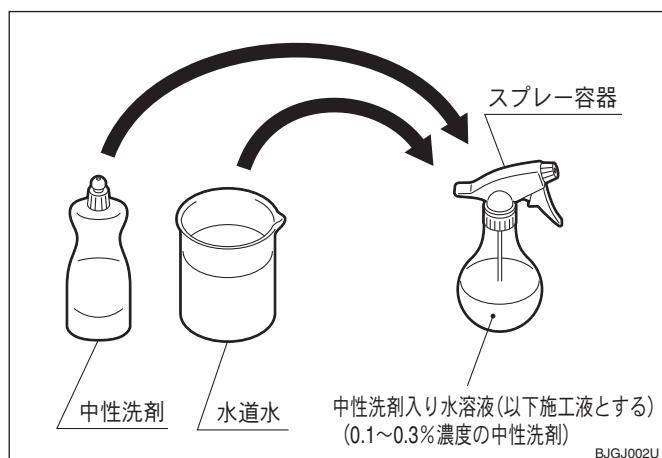
- ・プロテクションフィルム（ドアハンドル）（以下フィルム）の取り付け作業時には、車両部品に傷を付けないよう充分注意してください。
- ・冬季及び寒冷地（環境温度15℃以下）では、粘着力が低下しますので、フィルム取付面をドライヤー等で温めて取り付けてください。
フィルム自体を温めると変形する恐れがありますので、行わないでください。
- ・ほこりのたたない場所で作業を行ってください。
- ・脱脂剤等を使用する際は、火気に充分注意してください。
- ・フィルムの粘着面に触れる際は、指に中性洗剤入り水溶液（以下、施工液）を塗布してください。



取り付けに必要な工具等

中性洗剤（推奨：界面活性剤約 30 ～ 35%）、柔らかい布、水、脱脂剤等【イソプロピルアルコール（IPA）純度 100%推奨】、スプレー容器、マスキングテープ、ドライヤー（外気温が 15℃以下の場合）

取り付け前の準備



施工液の準備

1. 中性洗剤を水道水で 0.1 ～ 0.3% に薄め、スプレー容器に入れる。

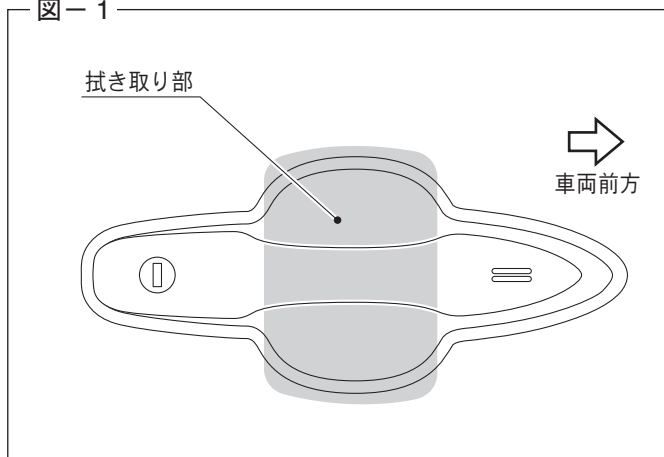
👉 アドバイス

- ・界面活性剤 30 ～ 35% の中性洗剤を使用した場合の濃度です。
- ・界面活性剤の濃度が異なる場合は施工液の濃度が変わります。

本書では、Fr, RH 側の取付要領を記載しています。他の部品についても Fr, RH 側と同様の作業を行ってください。
また、イラストの詳細については、当該車両と異なる場合がございます。

取付要領 フィルム Fr, RH の取り付け

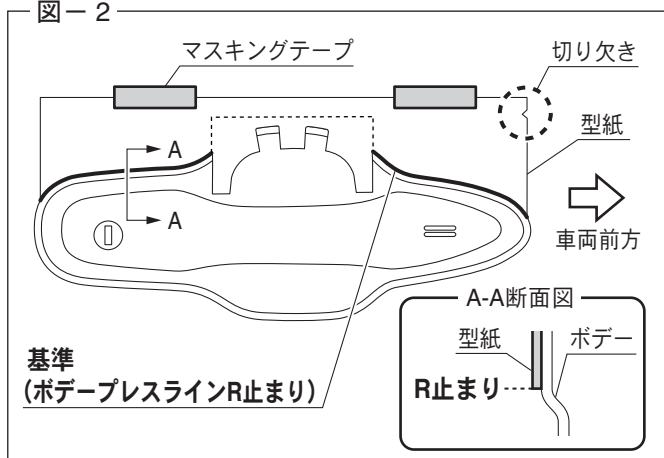
図－ 1



取付面の拭き取り

1. フィルム取付面（部）の汚れ、油分や水分を脱脂剤等で確実に拭き取る。（図－ 1 参照）

図－ 2



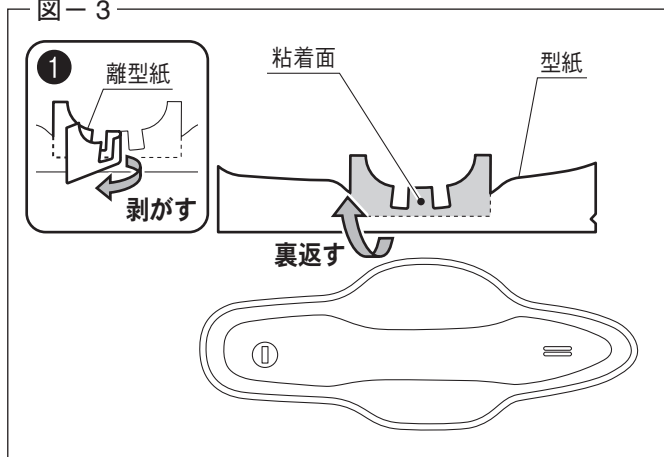
型紙の取り付け

1. 型紙の切り欠き形状を確認する。
2. 型紙の下端をボデープレスライン R 止まりに合わせ、マスキングテープで固定する。（図－ 2 参照）

⚠ 注意

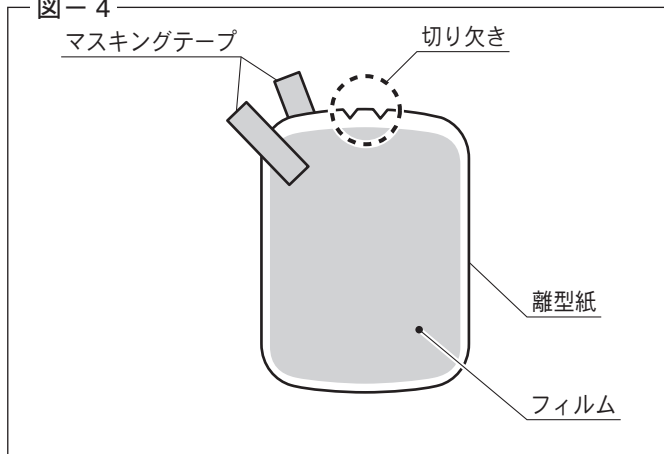
型紙の位置決めがずれると、フィルムがボデーの R に乗り上げ、気泡やシワが発生する恐れがあります。型紙の位置決めを確実に行ってください。

図－ 3



3. 型紙を裏返し、① に従い、裏面のスリットより下の部分の離型紙を剥がす。（図－ 3 参照）
4. 型紙を図－ 2 の位置に戻し、離型紙を剥がした粘着面（部）をボデーに貼り付ける。

図－ 4

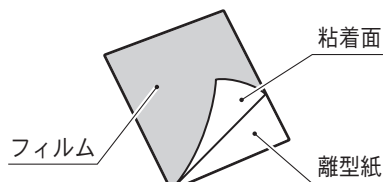


フィルム位置合わせ前の準備

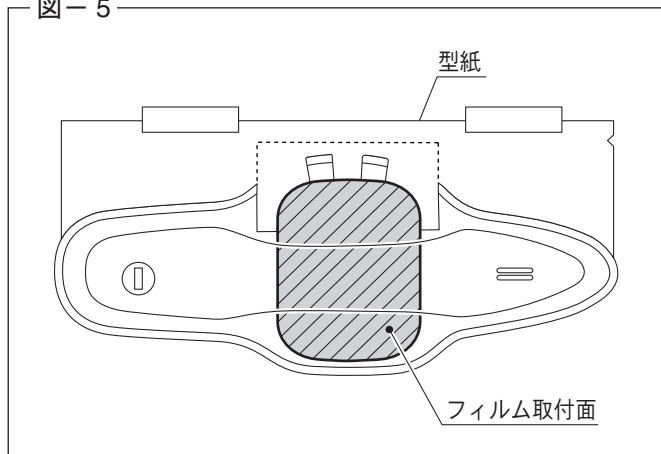
1. 型紙とフィルムの切り欠き形状を確認する。（図－ 4 参照）
2. 直接フィルムの粘着面を触らないよう、フィルムの上側 2 箇所にもマスキングテープを貼る。（図－ 4 参照）

👉 アドバイス

フィルムの構造



図－5

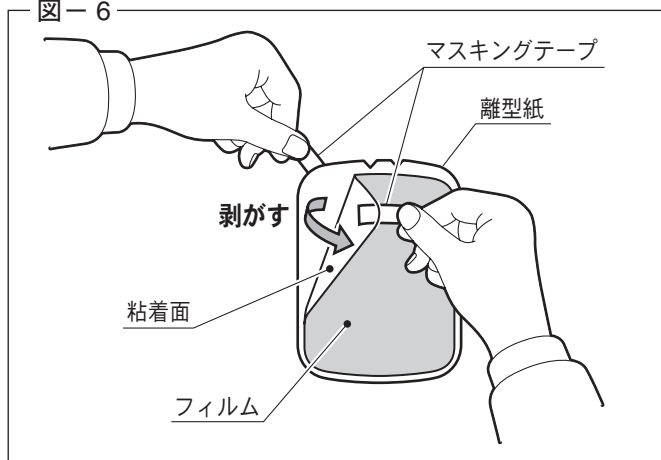


3. フィルム取付面（部）に施工液を全面にまんべんなく吹き付ける。
（図－5 参照）

⚠ 注意

施工液がかかっていない所があると、フィルムがボデーに貼り付き、シワ・水残りの原因になります。

図－6

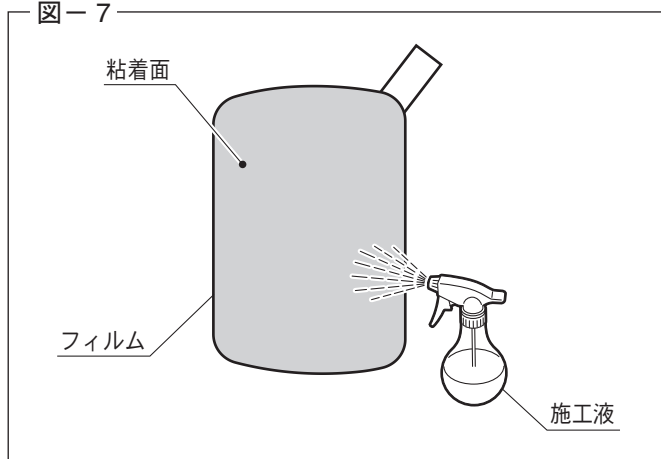


4. マスキングテープを持ちながら、フィルムを離型紙から剥がす。
（図－6 参照）

⚠ 注意

離型紙を剥がす際、フィルム粘着面には触れないよう作業を行ってください。
触れると粘着力が弱くなります。

図－7

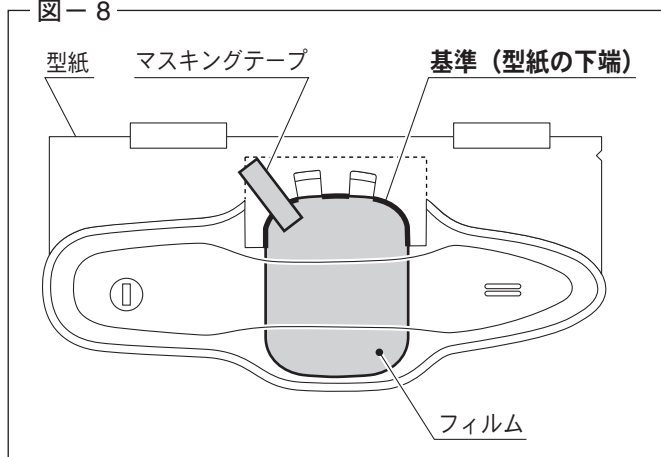


5. フィルムの粘着面に施工液を全面にまんべんなく吹き付ける。
（図－7 参照）

⚠ 注意

施工液がかかっていない所があると、フィルムがボデーに貼り付き、シワ・水残りの原因になります。

図－8



フィルム位置合わせ

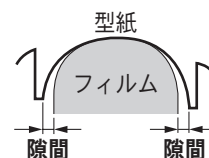
1. フィルムに取り付けたマスキングテープを持ちながら、フィルム上端を型紙の下端に合わせる。
（図－8 参照）

⚠ 注意

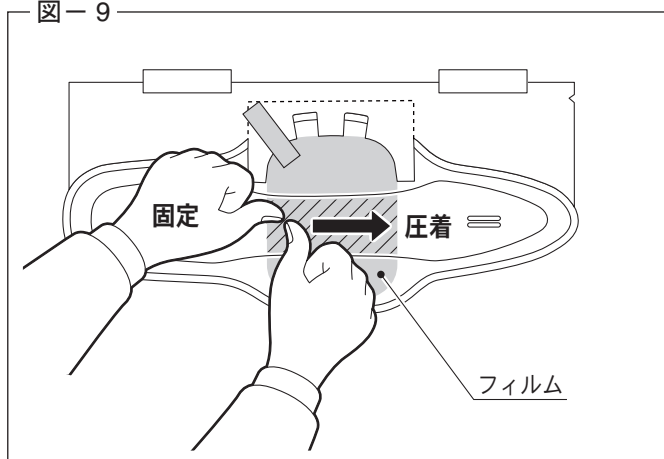
フィルムと型紙に隙間がある場合があります。

〈隙間がある場合〉

フィルムの上端を型紙に突き当て、フィルムと型紙の左右の隙間が均等になるようにしてください。



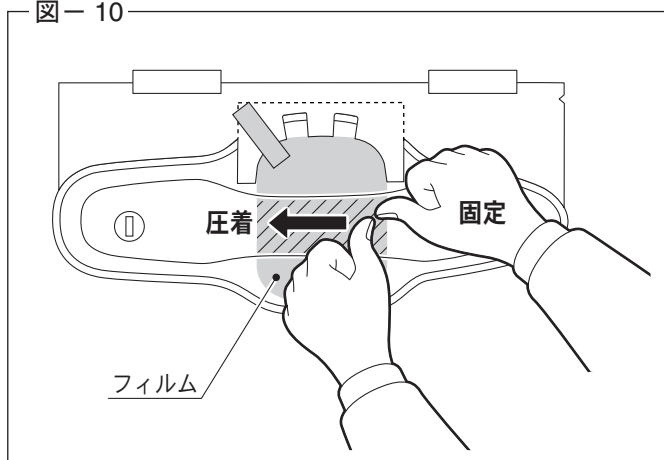
図－ 9



フィルム中央部の圧着

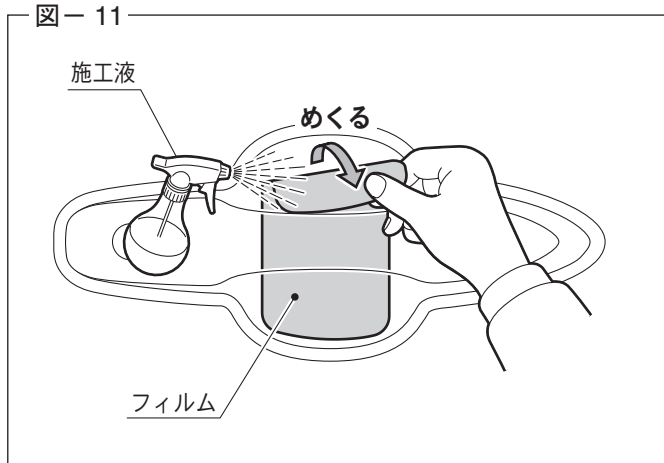
1. 位置合わせの際、フィルムがずれないように、初めにフィルム中央部のみ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
2. 次に、右方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－ 9 参照)

図－ 10



3. 次に、左方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－ 10 参照)
4. 再度、フィルム中央部を 30N (3kgf) 程度で左右方向に圧着する。

図－ 11



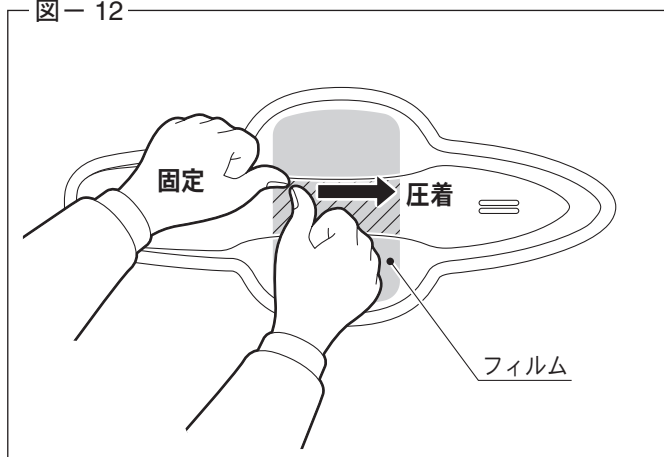
フィルム中央上側部の圧着

1. マスキングテープと型紙を取りはずす。
2. フィルムの粘着面に指紋等が付かないよう、指に施工液を吹き付ける。
3. フィルムの上側をめくり、取付面に施工液が泡立たないように、まんべんなく吹き付ける。
(図－ 11 参照)

⚠ 注意

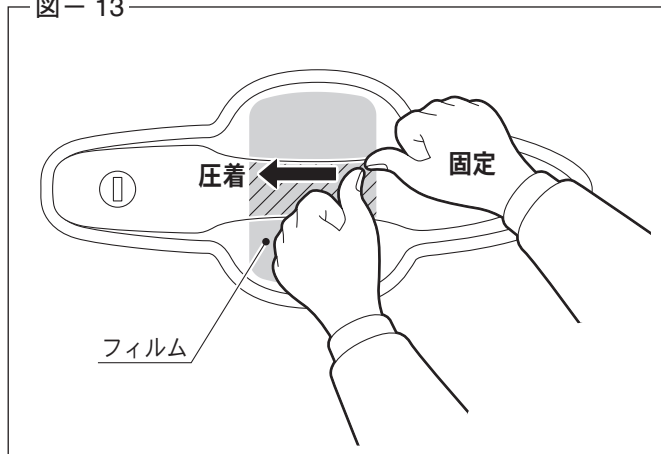
施工液は泡立たないように、吹き付けてください。
泡立ってしまうと圧着の際、気泡が抜けきらなくなる場合があります。

図－ 12



4. フィルム中央上側部を右方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－ 12 参照)

図－13

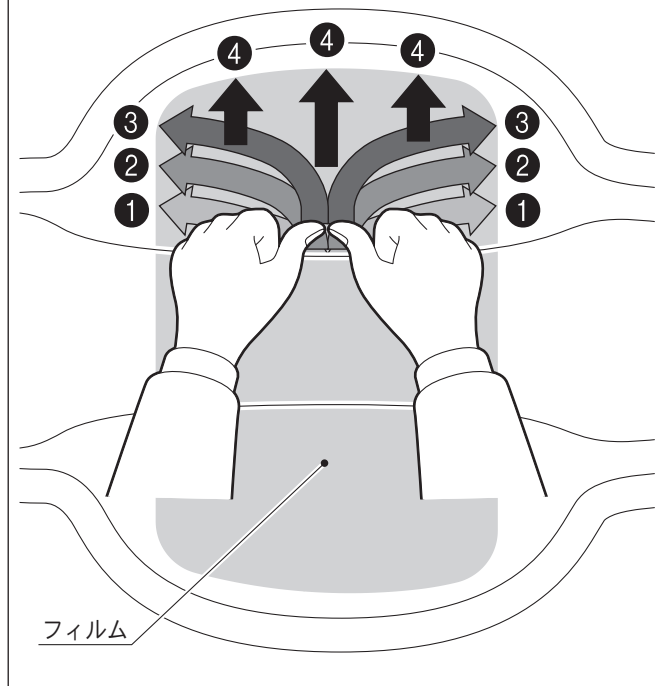


5. 次に、左方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－13 参照)
6. 再度、フィルム中央上側部を 30N (3kgf) 程度で
左右方向に圧着する。

図－14

〈圧着の順序〉

中心から外側に向けて交互に
圧着してください



7. フィルムの中心から外側に向けて、①～④の順で
交互に 30N (3kgf) 程度でゆっくり圧着する。
(図－14 参照)

⚠ 注意

シワ等が発生しやすい為、必ず中央から外側の方向へ
交互にゆっくり確実に圧着してください。
最後に上部を圧着してください。

⚠ 注意

図－14 の圧着順序で水抜き作業を終えるようにして
ください。

👉 アドバイス

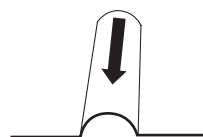
両指で交互に作業すると水抜きがしやすくなります。
指の腹を使って確実に圧着してください。

8. 押し出した水が戻らないように柔らかい布で吸い取る。

⚠ 注意

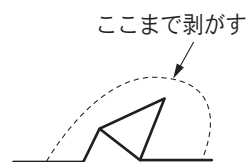
フィルムに発生したツノは、フィルム全体を無理に
圧着すると、シワの原因になります。

〈良いツノ〉



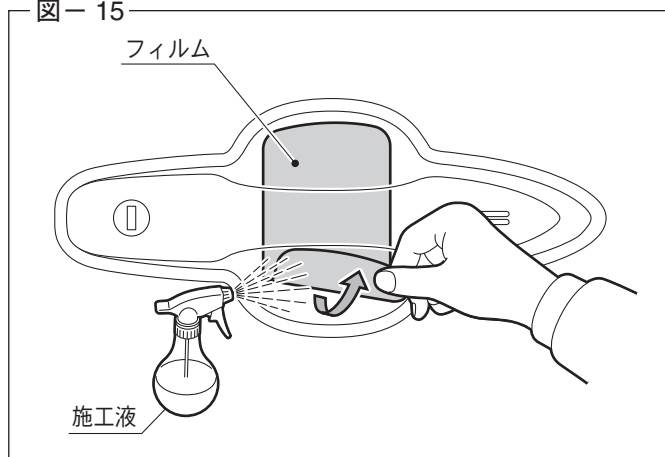
ツノを指の腹で
押さえ、矢印の
方向へゆっくり
圧着する。

〈悪いツノ〉



無理に圧着せず、フィルム
とボデーの間に施工液を
吹き付け、周辺を剥がした後、
再度圧着を行う。
剥がす際、フィルムを強く
ひっぱると伸びてしまう
恐れがあります。

図－ 15



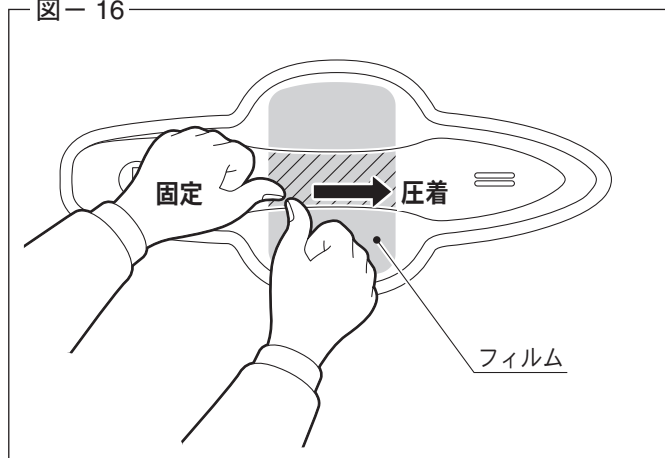
フィルム中央下側部の圧着

1. フィルムの粘着面に指紋等が付かないよう、指に施工液を吹き付ける。
2. フィルムの下側をめくり、取付面に施工液が泡立たないよう、まんべんなく吹き付ける。
(図－ 15 参照)

⚠ 注意

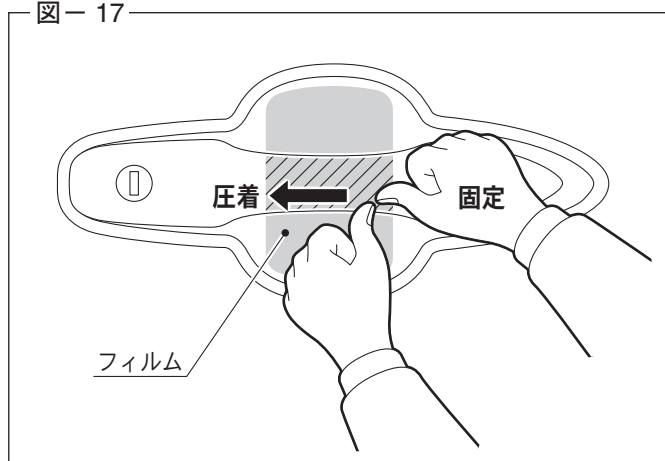
施工液は泡立たないよう、吹き付けてください。
泡立ってしまうと圧着の際、気泡が抜けきらなくなる場合があります。

図－ 16



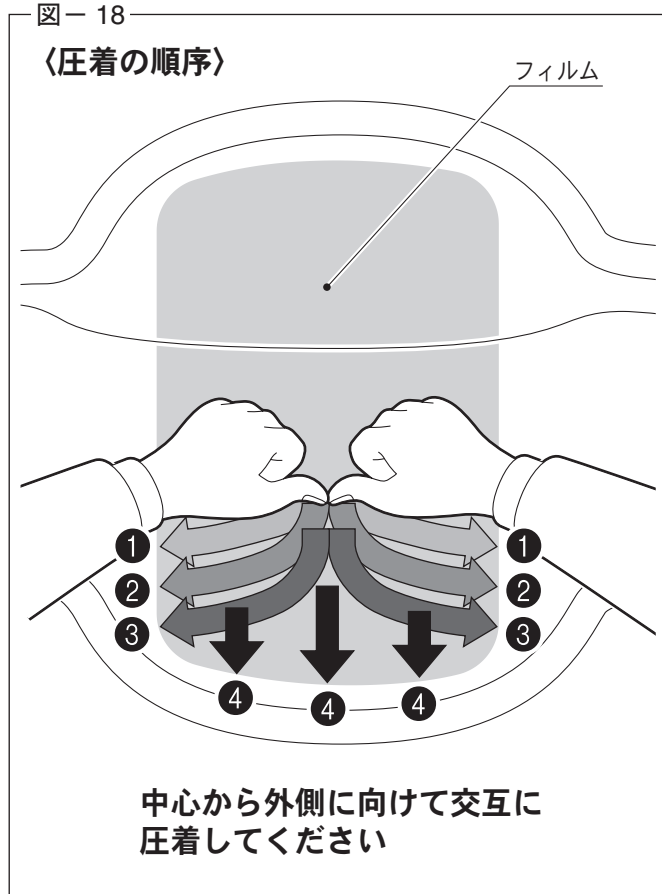
3. フィルム中央下側部を右方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－ 16 参照)

図－ 17



4. 次に、左方向へ 30N (3kgf) 程度で圧着する。
(図－ 17 参照)
5. 再度、フィルム中央下側部を 30N (3kgf) 程度で左右方向に圧着する。

図- 18



6. フィルムの中心から外側に向けて、①～④の順で交互に30N（3kgf）程度でゆっくり圧着する。
（図- 18 参照）

⚠ 注意

シワ等が発生しやすい為、必ず中央から外側の方向へ交互にゆっくり確実に圧着してください。
最後に下部を圧着してください。

⚠ 注意

図- 18 の圧着順序で水抜き作業を終えるようにしてください。

👉 アドバイス

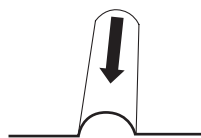
両指で交互に作業すると水抜きがしやすくなります。
指の腹を使って確実に圧着してください。

7. 押し出した水が戻らないように柔らかい布で吸い取る。

⚠ 注意

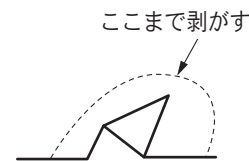
フィルムに発生したツノは、フィルム全体を無理に圧着すると、シワの原因になります。

〈良いツノ〉



ツノを指の腹で押さえ、矢印の方向へゆっくり圧着する。

〈悪いツノ〉



無理に圧着せず、フィルムとボデーの間に施工液を吹き付け、周辺を剥がした後、再度圧着を行う。
剥がす際、フィルムを強くひっぱると伸びてしまう恐れがあります。

取付完了後の点検・注意事項

1. 施工液の界面活性剤がフィルム取付面とフィルムの間に残って白くボケて見えますが、約 48 時間程で消える為そのまま放置してください。
2. 一度取り付けたものを剥がすと、伸びたり接着力が低下するので、圧着後は剥がさないでください。
3. 取り付け後 24 時間以内は洗車しないでください。